



『青い光が見えたから 16歳のフィンランド留学記』

高橋絵里香／著 講談社 Y 376

「ムーミン」を読んだ時から、フィンランドに行きたいと思いつけていた…。16歳の日本人の女の子がなんと、フィンランドの高校に留学！言葉の壁、文化の違いに戸惑いながらも、精一杯学び、素晴らしい高校生活の様子が描かれます。留学したくなる1冊です。(担当0)

学びたい

『うめ版 新明解国語辞典×梅佳代』

梅佳代／写真
三省堂 Y 748

「辞典」という語を見て、身構えたあなたにこそ手に取ってほしい！新鋭写真家・梅佳代と『新明解国語辞典』が写真と言葉でコラボレイト。ぶっと笑って、ほっこりすること間違いなし。私のおすすめは、「掟」「悔しい」「辛抱」です。みなさんのお気に入りは何でしょう？(担当T)

give me 「ほっこり」

テスト前はユーウツ

『銀河英雄伝説』全10巻

田中芳樹／著 東京創元社
創元SF文庫 913.6

テスト前の気分転換に壮大な物語はいかが？宇宙暦8世紀末、銀河系では絶大な力を持つ銀河帝国と民主主義を掲げる自由惑星同盟が覇権を争って熾烈な戦いを繰り広げていた。“常勝の天才”ラインハルトと“不敗の魔術師”ヤン・ウェンリー、2人の英雄の知略に満ちた戦いから目が離せない！でも、読み始めてしまったら…今回のテストはもう、あきらめたほうがいい…。(担当0)

おなかすいた

『世界のお弁当』

服部直美／著
情報センター出版局 Y 596

お腹がすいたが、お昼までにはまだ何時間もある。そんなときは世界のお弁当に思いを馳せてみよう。ごはんにサンドイッチにカレーにスープ…どれもとっても美味しそう。国によって、お弁当箱から食べ方、配達まで、様々な違いがあり、お弁当から世界が見えてくる！ああでも、もっとお腹がすいたやいましたよね。(担当0)

『マーヤの自分改造計画』

マーヤ・ヴァン・ウァーグネン／著
代田亜香子／訳
紀伊國屋書店 Y 376

クラスの中でも地味で、パツとしない学校生活を送っていたマーヤ。ある日、60年以上前の10代のモデルが書いた人気者になるためのマニュアル本を家で見つける。その本を読んだマーヤは、中学3年の1年間この本の通りにしてみても、自分を変える決意をする。時代遅れの服装をして、時には周りに笑われるけど、それにもめげずに行動する姿に勇気づけられます。(担当1)

自分を変えたい

『トリツカレ男』

いしいしんじ／著
新潮社 新潮文庫 B913.6

トリツカレ男の名前はジュゼッペ。夢中になると、寝ても覚めてもそればかり。例えば、バツタにトリツカレれば、移動はずっと三段跳び！という風に。そんな一途なトリツカレ男が恋をしたら、まあ大変。想定外の行動に驚くも、心温まり、誰かを大切にしたいと思うことでしょう。読み終わるころには、あなたもトリツカレしていますよ、きっと。(担当T)

恋した～い！



『カーテンコール』

加納朋子／著
新潮社 Y913

三月で閉校することが決まった萌木女学園。にもかかわらず、卒業できない女学生達を宿泊施設にひとまとめにして、特別補講をすることになった。夜更かし、遅刻魔、食べ過ぎ…卒業できない理由は十人十色。1人1人に焦点を当てた学園青春小説。「この主人公は自分だ！」という物語を探してみてください。(担当I)

学校つらい…

『希望名人ゲーテと絶望名人カフカの対話』

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ／著
フランツ・カフカ／著
頭木弘樹／編訳 飛鳥新社 Y947

世界的に読みつがれている大作家2人の名言集。人間観、仕事、恋愛等、ここまで違うかと考えさせられる程、正反対です。ゲーテの言葉で、素直に勇気づけられて、カフカの言葉を読み、自分の絶望なんかまだまだ甘いと、安心しよう！(担当I)

落ち込んだ時に…

あそびたい！

『イサム・ノグチ物語』

めらかよこ／著
未知谷 Y712

アメリカ人の母、日本人の父を持つイサム・ノグチは、幼少期いじめに遭ったが、後に成長して彫刻家となった。そして、自分が子ども時代に実現できなかった、思い切りみんなで遊べる「プレイマウンテン(遊び山)」を、芸術作品としてつくりあげていく。遊べることは当たり前のことではなく、本当に大事なことだと、読んだら気づかされます。(担当I)

悩まずにとりあえず……



将来不安だし…

『この世でいちばん大事な「カネ」の話』

西原理恵子／著・装画・挿画
理論社 Y159

一生きていくな、お金を稼ぎましょうー
キレイごとを言っただけは
いられない。西原さんが人生のどん底を経験してお金がない世界を見たからこそ、説得力のあるエッセイです。お金の持つ力を知り、お金と向き合うことは、自分の人生=生きることについて考えることです。(担当T)

手に取ってみようか……
う～ん

『サクランボたちの幸せの丘』

アストリッド・リンドグリーン／作
石井登志子／訳 徳間書店 Y949

都会から農場に越してきた16歳のバーブロとシャスティンの双子は、慣れない農場の仕事に悪戦苦闘！家畜の世話や畑仕事、毎日へとへとになるけれど、仕事をして誰かの役に立つって素晴らしい！働きながら友達と遊び、恋もする、スウェーデンの女の子たちの物語。(担当O)

働くってどういうこと？

『「いじめ」をめぐる物語』

荻原浩／小田雅久仁／越谷オサム／
辻村深月／中島さなえ／著
朝日新聞出版 913.68

なにかしら心にひっかかりがあるから、この本に目を留めたのでしょうか。読みすすめるほどに、胸が締め付けられますが、逃げずに作品を読んで考えてほしいです。いじめを受けた側、いじめた側、その友だち、家族、教師…「いじめ」には、さまざまな“当事者”たちがいます。あなたには？(担当T)

「向き合わなくちゃ」って、わかってる

編集後記

『銀河英雄伝説』を友人に借りたとき、「体に気をつけて読んで」と言われました。読み始めて納得！どんなに眠くても読むのをやめられない！皆さんもどうか「体に気をつけて」(担当O)

憂鬱・逃避など負の感情をもっているときに、読書をした気分になります。同じような困難を抱えている物語を見つけると、少しは心が軽くなるかもしれません。(担当I)

恋していますか？私は……！？トリツカレ男は、誠実で純粋で、壁ドンなんかしなくても魅力的です！時には、こんなピュアラブストーリーにどっぷり浸かってみては？(担当T)